

【 まちの将来像2 】

次代の社会を担う子どもたちを育むまち

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|-------------------------|---|--------------------------------------|--------|-------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-1 | すべての子どもの育ちを支援する | | |
| 3 | 施策の方向性 (前期基本計画より) | 次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てができる環境を整えます。 | | | |
| 4 | 評価者等 | | 部名 | 補職名・課名 | 氏名 |
| | | 評価者(部長級) | こども育成部 | 部長 | 佐藤 房子 |
| | | 施策主担当課 | こども育成部 | こども政策課 | — |
| | | 施策関係課 | 子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課 | | |
| 5 | 施策内の取組 (★:重点プラン該当取組) | 2-1-1 | ★子どもの健やかな育ちを等しく支援 | | |
| | | 2-1-2 | ★子育て支援サービスの提供 | | |
| | | 2-1-3 | ★幼児教育と保育の質と量の充実 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|---|----------|---|---|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 2 | 評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等) | | H28年度末現在の施策の主な課題 | | |
| | <p>こども医療費の所得制限を撤廃しました。また、ひとり親家庭への支援については、親の就業等自立につなげるため、介護職員初任者研修の実施や自立支援給付金を充実するほか、中学生を対象とした学習・生活支援の拡充を図りました。</p> <p>さらに、次代を担う青少年等が、結婚や子育てに前向きになれるよう、気運の醸成を図るため、子育ての体験学習等の事業を実施しました。</p> <p>療育支援については、市内通所支援事業所による説明会を開催するとともに、より早期療育支援につながるよう「親子ひろば事業」をモデル実施しましたが、具体的な実施方法等の再検討が必要となっています。</p> <p>児童発達支援については、計画相談を普及させるため事業所への補助を行いました。十分な導入には至っていません。</p> <p>子育て総合案内事業では、利用者支援事業を特定型から基本型に切り替え実施し、地域で子育て支援に取り組んでいる組織・団体等との連携に努めました。</p> <p>一時保育については、つどいの広場運営事業者の意向を把握しましたが新たな実施はありませんでした。子育て短期支援事業では、トワイライトステイ利用時の施設までの送りやショートステイ利用時の学校への送迎を実施し、産前産後ホームヘルパー派遣事業では、利用回数、利用期間の拡大を行いました。</p> <p>待機児童解消に向けて、公立幼稚園5園の認定こども園化、待機児童保育室の新設、私立認定こども園の建替え、小規模保育事業所3カ所の新設により新たな保育の受皿を確保できましたが、認定こども園の新設については応募がない状況です。</p> <p>幼児教育と保育の質については、茨木っ子ジャンプアッププラン28に基づく取組の結果、保育所・幼稚園と小学校との連携が進み、幼児教育と保育の質の充実につながりました。</p> | | 課題① | ひとり親家庭への支援では、子どもの学習・生活支援の拡充とあわせて、参考指標の割合が下がっていることから、相談窓口の強化や親の就業等自立につながる施策の充実を図る必要があります。 | |
| | | | 課題② | 児童虐待対応の件数が増加し複雑化するなか、府子ども家庭センターから虐待案件送致も予定されているため対応が必要になります。 | |
| | | | 課題③ | 妊娠期から子育て期の支援について、利用者目線での継続性と整合性が十分に確保できていないことから、切れ目のない支援を一体的に提供する必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 個別ニーズに応じた情報や最新の情報を迅速かつ的確に提供できていないことから、情報発信の手法を検討する必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | 待機児童解消に必要な保育の受入体制の確保方策のひとつである認定こども園の新設整備事業の事業者公募において、土地の確保の難しさなどから応募がなく、受入体制の確保ができていないことから、公募方法等の見直し及び新たな確保方策について検討する必要があります。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|--------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-1 | すべての子どもの育ちを支援する |

3 H29年度の施策の進め方

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|---|
| 課題① への 対応 | 子どもの学習・生活支援の拡充を図るとともに、ひとり親家庭等を対象とした弁護士による無料法律相談や介護職員初任者研修を実施します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国・府の制度を踏まえ、奨学金の支給額の検討・就学援助費の支給等の支援を行うとともに、奨学金・就学援助費の支給時期を早期化します。 ・親子ひろばの実施手法を見直すとともに、計画相談については更なる普及策を検討します。また、民間事業所との役割分担も含め再編後の療育体制についても検討をすすめます。 ・短時間就労に対応する保育の受け皿が不足しているため、新設で公募する2か所のつどいの広場に一時保育の実施を働きかけます。 ・学習指導要領改訂にともなう外国語教育について、第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランに基づき、英語で遊ぼうデーの実施や「保幼小連携カリキュラム」に基づく取組を推進します。 ・保育所等利用者負担額について、適正な利用者負担とするため審議会へ諮問し、その答申を受け利用者負担のあり方を確定します。 |
| 課題② への 対応 | 児童虐待対応強化のため、管理職や虐待対応強化支援員を配置し、こども相談室の体制強化を行います。 | |
| 課題③ への 対応 | 保健医療課とともに子育て世代包括支援センター事業を開始します。 | |
| 課題④ への 対応 | 利用者支援員の周知を図ることや、子育てアプリなどの導入を検討します。 | |
| 課題⑤ への 対応 | 認定こども園の新設整備事業については、土地の確保問題を踏まえた見直しについて検討するとともに、待機児童解消に必要な新たな保育の受入体制の確保方策についても検討します。 | |

4 H30年度以降の施策の方向性

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|---|
| 課題① への 対応 | 安定した就業が確保できるよう、資格取得の支援や相談窓口の周知、職業安定所などの関係機関と連携を図り、ひとり親家庭が自立できるよう努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国・府の制度を踏まえ、奨学金の支給額について検討するとともに、引き続き、就学援助費の支給など各種支援を行います。 ・再編した療育体制のもと、変化するニーズに対応できるよう、引き続き、効果的な療育体制等の検討を進めます。 ・短時間就労に対応する保育の受け皿が不足しているため、新設で公募する2か所のつどいの広場に一時保育の実施を働きかけます。 ・引き続き第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランに基づく取組を推進します。 |
| 課題② への 対応 | 府子ども家庭センターなどの関係機関との連携強化に努めます。 | |
| 課題③ への 対応 | 機構改革を含め、円滑な事業運営を図るために取組を進めます。 | |
| 課題④ への 対応 | IT機器を導入し、より迅速に子育て支援情報を提供するとともに利用者支援事業の効果的な周知を図ります。 | |
| 課題⑤ への 対応 | 待機児童の状況を考慮し、さらなる解消への取組を実施します。 | |

5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

| H30年度以降の行財政改革の推進 | | 該当する主な行革指針の具体的項目 |
|------------------|---|------------------|
| 1 | 子育て世代包括支援センター事業の円滑な実施と公立保育所の利用者支援事業との連携を進めます。 | 4-1 効率的な組織運営 |
| 2 | 審議会の答申を受けて、利用者負担を増加させる場合は、歳入の増が見込まれます。 | 3-2 負担の公平性確保 |
| 3 | 英語で遊ぼうデーについて実施後の検証を進めます。 | 2-3 業務の改善・改革 |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |

| | | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | |
| 2 | 施策 | 2-1 | すべての子どもの育ちを支援する | | | |

6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|-------------------|-------------------------|--|---|--------------------|---------|-----------|---------|
| 1 | 取組 | 2-1-1 | ★子どもの健やかな育ちを等しく支援 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | こども政策課 | 課長名 東井 芳樹 | |
| 3 | 関係課 | 子育て支援課、保育幼稚園事業課、学務課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとするさまざまな状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 修学意欲のある若者をサポートする取組 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | <p>安心して子育てができる環境を整えるため、こども医療費の所得制限を撤廃しました。</p> <p>ひとり親家庭への支援については、親の就業等自立につなげるため、介護職員初任者研修を実施したほか、自立支援教育訓練給付金の拡充や高等職業訓練促進給付金の対象資格の拡大等を行うとともに、中学生を対象とした、学習・生活支援の拡充を図りました。</p> <p>療育支援については、市内通所支援事業所による説明会を開催するとともに、より早期に療育支援につながるよう「親子ひろば事業」をモデル実施しましたが、具体的な実施方法等の再検討が必要となっています。</p> <p>児童発達支援については、計画相談を普及させるため事業所への補助を行いました。十分な導入には至っていません。</p> <p>子育ての体験学習やライフデザインを考える機会等を提供し、結婚や子育てに前向きになれる気運の醸成を図るため、中学生や大学生等を対象とした事業に取り組みました。</p> <p>今後も、子どもの貧困対策や児童虐待への対応をはじめ、さまざまな立場の子ども・家庭への支援に努める必要があります。</p> | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 就業等自立につながったひとり親家庭の割合 | % | ↗ | 78 | 75 | 80(各年度) |
| こんにちは赤ちゃん事業の訪問完了率 | % | ↗ | 93 | 94 | 97(各年度) | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------------|--|---|----------------------|---------|----------|---------|
| 1 | 取組 | 2-1-2 | ★子育て支援サービスの提供 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | 子育て支援課 | 課長名 中井 誠 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 個々のニーズに応じた支援サービスが活用され、安心して子育てができるようになっていきます。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 子育て支援策の充実、適切な支援情報の提供 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | <p>子育て総合案内事業では、利用者支援事業を特定型から基本型に切り替え実施し、地域で子育て支援に取り組んでいる組織・団体等との連携に努めるとともに、保健医療課で実施を検討している母子保健型利用者支援事業との連携を検討しました。</p> <p>一時保育については、つどいの広場運営事業者の意向を把握しましたが新たな実施はありませんでした。子育て短期支援事業では、トワイライトステイ利用時の施設までの送りやショートステイ利用時の学校への送迎を実施し、産前産後ホームヘルパー派遣事業では、利用回数、利用期間の拡大を行いました。公の施設において授乳やおむつ交換ができる場所を効果的に市民に周知する方法を検討しました。</p> | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 子育て総合案内事業の実施か所数 | か所数 | ↗ | 1 | 1 | 5(H31) |
| 一時保育スマイルの利用稼働率 | % | ↗ | 71 | 70 | 85(H31) | | |
| 子育て短期支援事業(ショートステイ)の利用日数 | 日 | ↗ | 59 | 76 | 84(H31) | | |

| | | | |
|---|--------|-----|--------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-1 | すべての子どもの育ちを支援する |

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|---|-------------------------|---|--|-----------------------------------|----------|-------|---------|
| 1 | 取組 | 2-1-3 ★幼児教育と保育の質と量の充実 | | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | 保育幼稚園総務課 | 課長名 | 西川 恵三 |
| 3 | 関係課 | 学校教育推進課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 待機児童の解消、 保護者のニーズに応じた幼児教育・保育の提供 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | C | 子ども・子育て支援事業計画等に基づいた施設整備(公立幼稚園の認定こども園化、小規模保育事業所の新設、待機児童保育室や既存私立保育所等の建替定員増事業等)により、待機児童解消に必要な保育の受入体制は確保できる見込みですが、認定こども園の新設整備事業が事業者公募の不調により実施できていません。 幼児教育と保育の質については、茨木っ子ジャンプアッププラン28に基づく茨木型保幼小中連携教育の推進や保幼小中連携カリキュラムの作成を行いました。その結果、保育所・幼稚園と小学校との連携が進み、幼児教育と保育の質の充実につながりました。 保育所や幼稚園等の利用と保護者の負担及び運営補助金等については、適正であるかの検証に向けての準備を進めています。 | | | | |
| | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 待機児童者数 | 人 | ↘ | 186 | 147 | 0(H29) |

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|-------------------------|---|--------------------|--------|-------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-2 | 地域ぐるみの子育てを推進する | | |
| 3 | 施策の方向性 (前期基本計画より) | 地域のさまざまな人材が連携・協力し、子育てを支援することで、親子ばかりではなく世代を超えた人たちの交流の場が充実するなど、「子育てでつながる地域社会」の実現をめざします。 | | | |
| 4 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | こども育成部 | 部 長 | 佐藤 房子 |
| | | 施策主担当課 | こども育成部 | 子育て支援課 | - |
| | | 施策関係課 | 保育幼稚園総務課 | | |
| 5 | 施策内の取組 (★:重点プラン該当取組) | 2-2-1 | ★交流の場の充実 | | |
| | | 2-2-2 | 子育て支援の輪づくり | | |
| | | 2-2-3 | ★地域の人材を活用した子育て支援 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|---|---|---|--|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| | 評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | H28年度末現在の施策の主な課題 | | |
| 2 | <p>つどいの広場の新規開設については、十分な周知や応募期間を確保できなかったため1か所の開設となりましたが、保育所・幼稚園で地域に園庭等の開放や子育て相談を実施することで、子育て世代の交流を深める機会を提供できました。</p> <p>子育て支援団体連絡会のC地区(三島地域)にてイベントを実施し、遊び提供やパネル紹介を通して地域の子育て家庭へ、子育て支援団体の周知を図りました。また、子育て支援団体連絡会未参加の団体へ参加メリットを継続的に伝え、1団体でも多く参加してもらえるよう推進し、すべての地区で参加団体が増加しました。</p> <p>いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバルでは、子育てに関わる団体だけでなく、まち魅力発信課、危機管理課、社会教育振興課にも参加してもらい、子育て家庭が関心を持つコーナーを幅広く設置することができました。</p> <p>子育て支援総合センターまで距離的に来所困難な家庭向けに、ファミリーサポート出張説明登録会を開催しました。また、会員登録後すぐに援助活動が行えるよう、活動前の必須研修である安全研修の実施方法を見直しました。</p> <p>以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p> | | 課題① | つどいの広場を計画的に整備するため、運営団体の確実な確保が必要です。 | |
| | | | 課題② | 公立保育所における地域支援事業の内容についての検証が必要です。 | |
| | | | 課題③ | いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバルに参加する団体の負担感の軽減と内容の充実に努める必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 援助会員の偏在化が進展する可能性があり、対策が必要です。 | |
| | | | 課題⑤ | | |

| | | | |
|---|--------|-----|--------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-2 | 地域ぐるみの子育てを推進する |

3 H29年度の施策の進め方

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題① への 対応 | つどいの広場の事業者募集に当たっては、募集要項・募集スケジュールの見直しを行い、多くの事業者が参加できるようにします。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市立認定こども園では、子育て相談を基本とした子育て支援を毎週実施するとともに、未就園児が安心して遊べる場の提供を行います。 ・得意分野を持った市民が子育て分野で活躍できるような仕組みを構築します。 |
| 課題② への 対応 | 保育所については、地域支援事業の検証を踏まえ、更なる充実を図るとともに利用者支援事業を実施します。 | |
| 課題③ への 対応 | 関係機関や団体等にkokoフェスティバルへの参加を呼びかけ、多様な催しが開催できるよう取り組みます。 | |
| 課題④ への 対応 | ファミリーサポートセンターの会員募集に当たり、広報誌への記載について募集地域の明示など工夫を行います。 | |
| 課題⑤ への 対応 | | |

4 H30年度以降の施策の方向性

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|---|
| 課題① への 対応 | 子育て支援の社会資源の不足している地域に、計画的につどいの広場を開設していきます。 | 子育て支援に携わる多様な主体が連携・協力する切れ目ない子育て支援体制をめざします。 |
| 課題② への 対応 | 公立保育所が地域における子育ての基幹的拠点としての役割を果たす必要があります。 | |
| 課題③ への 対応 | 地域イベントの実施状況を踏まえ、今後のあり方や、催しの内容、開催期間の見直しについて検討を行います。 | |
| 課題④ への 対応 | ファミリーサポートセンターの会員数、活動件数の増加にむけ、利用者の利便性の向上やニーズへの対応が可能となるよう運営を行います。 | |
| 課題⑤ への 対応 | | |

5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

| | H30年度以降の行財政改革の推進 | 該当する主な行革指針の具体的項目 |
|---|---|------------------|
| 1 | 公立地域子育て支援センターについては、保育所における地域支援事業と重複する事業があることから廃止を行いました。 | 2-2 事務事業の見直し |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |

| | | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | |
| 2 | 施策 | 2-2 | 地域ぐるみの子育てを推進する | | | |

6 施策内の取組の評価

★重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|----------------|-------------------------|---------------------------------|--|---------------|--------------|----------|---------|
| 1 | 取組 | 2-2-1 | ★交流の場の充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | 子育て支援課 | 課長名 中井 誠 | |
| 3 | 関係課 | 保育幼稚園総務課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 子育て中の親子が気軽に交流できる場が地域の中に充実しています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 地域の子育て支援拠点の充実 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | C | 新規につどいの広場を2か所公募しましたが、十分な周知や応募期間を確保できなかったため、1か所の開設となりました。 また、公立保育所の地域支援事業と併設する公立地域子育て支援センター事業のあり方を検討しました。 保育所・幼稚園で地域に園庭等の開放や子育て相談を実施することで、子育て世代の交流を深める機会を提供できました。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 地域子育て支援拠点の拠点数 | か所 | ↗ | 21 | 22 | 25(H31) |
| 地域子育て支援拠点の利用者数 | 人 | ↗ | 138,907 | 146,350 | 169,185(H31) | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|-------------------------|--|--|--------|------------|----------|---------|
| 1 | 取組 | 2-2-2 | 子育て支援の輪づくり | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | 子育て支援課 | 課長名 中井 誠 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 地域に根差した子育て支援の輪をつくり、それぞれが互いに支え合いながら、特色をいかした活動が展開されています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | 該当なし | 内容 | | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 子育て支援団体連絡会のC地区(三島地域)にてイベントを実施し、遊び提供やパネル紹介を通して地域の子育て家庭へ、子育て支援団体の周知を図りました。また、子育て支援団体連絡会未参加の団体へ参加メリットを継続的に伝え、1団体でも多く参加してもらえよう推進し、すべての地域で参加団体が増加しました。 いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバルにおいては、まち魅力発信課、危機管理課、社会教育振興課などにも参加してもらい、子育て世代の市に対するイメージの調査、防災情報の提供、親支援施策の紹介により、子育てに関わる団体だけでなく、子育て家庭が関心を持つテーマのコーナーを取り入れました。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 子育て支援団体連絡会の年間実施回数 | 回 | → | 28 | 30 | 45(H31) |
| いばらきkokoフェスティバルへの参加者数 | 人 | → | 1,466 | 1,359 | 1,460(H31) | | |

| | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-2 | 地域ぐるみの子育てを推進する | | |

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|---|-------------------------|---|--|---|--------|-------------|----------|
| 1 | 取組 | 2-2-3 | ★地域の人材を活用した子育て支援 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | 子育て支援課 | 課長名 中井 誠 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 地域の人材がさまざまな形で活用され、地域住民の経験・知識・技術等をいかした活動が展開されています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 高齢者の経験等をいかした子育てへのかかわりなど、子育て支援と生きがいつくりの連携の推進 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 子育て支援総合センターまで距離的に来所困難な家庭向けに、山手台においてファミリーサポート出張説明登録会を開催しました。また、会員登録後すぐに援助活動が行えるよう、活動前の必須研修である安全研修の実施の方法を見直しました。 | | | | |
| | | | <small>a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ</small> | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | ファミリー・サポート・センターの援助会員数 | 人 | ↗ | 365 | 309 | 400(H31) |
| | | | | | | | |

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|-------------------------|---|--------------------|---------|-------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-3 | 「生きる力」を育む教育を推進する | | |
| 3 | 施策の方向性 (前期基本計画より) | すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成し、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通した信頼される学校づくり」を進めます。 | | | |
| 4 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 学校教育部 | 部 長 | 小川 浩一 |
| | | 施策主担当課 | 学校教育部 | 学校教育推進課 | - |
| | | 施策関係課 | 学務課、教職員課、教育センター | | |
| 5 | 施策内の取組 (★:重点プラン該当取組) | 2-3-1 | ★「確かな学力」の充実 | | |
| | | 2-3-2 | ★「豊かな心」の醸成 | | |
| | | 2-3-3 | ★「健やかな体」の育成 | | |
| | | 2-3-4 | 学校支援体制の充実 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|---|------------------|---|--|--|
| 1 | 総合評価 | A | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| | 評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | H28年度末現在の施策の主な課題 | | | |
| 2 | 「確かな学力」の充実及び「豊かな心」の醸成については、小学校が目標を達成できず、中学校は目標を達成しました。小中学校とも学力向上プラン開始年度から9年間の傾向で見ると、平均正答率が向上し、学力低位層の割合が減少し、高位層の割合が増加する傾向にあり、本市の児童・生徒の学力は着実に向上してきています。「確かな学力」を育成する取組の成果と考えられます。 「健やかな体」の育成については、小中学校とも目標を達成することができました。体育授業の改善・充実を図るとともに、小中6年間のスポーツテストを実施し、記録をデータ化して個人シートを作成したことで、児童・生徒が自分の体と向き合い、運動の必要性を理解し、運動に対する意欲を高めることにつながっています。 学校支援体制の充実については、目標値をいずれも達成できませんでしたが、研修については、教職員のニーズを把握し、各種教育課題に対応する内容にしたため、前年度からは向上しています。相談業務については、相談者の状況が改善されるよう関係機関とも連携し、丁寧かつ迅速に遂行しました。また、適応指導教室「ふれあいルーム」については、ケース会議・学校訪問など学校との連携に努め、不登校児童・生徒の学校復帰を目指した取組を行いました。 以上から、施策の方向性に沿って順調に遂行していると判断し、総合評価は「A」とします。 | | 課題① | 第1～3次プランの成果と課題を検証し、次期プランの策定が必要です。 | |
| | | | 課題② | いじめや不登校に対する対応が必要です。 | |
| | | | 課題③ | 体力向上の取組の推進、体育授業の改善・充実をさらに広げるとともに、食育を推進する必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 学習指導要領改訂に対応し、小中学校での外国語教育及び道徳教育の充実を進める必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | 教職員の長時間勤務の解消や学校・教職員の業務改善が必要です。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|--------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-3 | 「生きる力」を育む教育を推進する |

3 H29年度の施策の進め方

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題①への対応 | 第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランを策定し、それに基づき取組を進めます。 | 第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランでは、学力向上・体力向上、保幼小中連携の推進に加え、学習指導要領改訂による外国語教育や道徳教育の推進、いじめ・不登校などへの対応、支援教育の充実、教員が子どもと向き合う時間の確保に向けた業務改善の推進など、総合的な教育施策を展開します。 |
| 課題②への対応 | いじめ・不登校等の問題事象の未然防止、早期発見、早期解決に向けて、専門家や外部機関と連携した取組を進めます。 | |
| 課題③への対応 | 第4次プランの重点課題の一つに健康体力の増進を位置づけ、11年間を見通した子どもの体力向上や食育・健康教育の取組を推進します。 | |
| 課題④への対応 | 教員の英語指導力の向上を図るとともに、英語シャワーディや英語で遊ぼうディを実施します。道徳教育推進教師連絡会や道徳教育研修会を行い、質の高い道徳教育を推進します。 | |
| 課題⑤への対応 | 教職員の負担軽減のため業務サポーターを配置するとともに、ICカードを導入して教職員の勤務時間の適正な把握に努めます。 | |

4 H30年度以降の施策の方向性

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題①への対応 | 第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランに基づく、取組を進めていきます。 | 第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランでは、学力向上・体力向上、保幼小中連携の推進に加え、学習指導要領改訂による外国語教育や道徳教育の推進、いじめ・不登校などへの対応、支援教育の充実、教員が子どもと向き合う時間の確保に向けた業務改善の推進など、総合的な教育施策を展開します。 |
| 課題②への対応 | 引き続き、いじめ・不登校対応の充実に努めます。 | |
| 課題③への対応 | 引き続き、体力向上、食育・健康教育を推進します。 | |
| 課題④への対応 | 引き続き、教員の英語指導力の向上とNETの配置による取組の充実と、質の高い道徳教育の推進を図ります。 | |
| 課題⑤への対応 | 業務サポーターの活用や適切な勤務時間管理などを通して、学校・教職員の業務改善の取組を進め、持続可能な学校教育活動を推進します。 | |

5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

| | H30年度以降の行財政改革の推進 | 該当する主な行革指針の具体的項目 |
|---|--|------------------|
| 1 | 平成31年度で終了する第4次3か年計画茨木っ子グローイングアッププランの効果を検証し、業務改善を進めて行きます。 | 2-3 業務の改善・改革 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |

| | | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | |
| 2 | 施策 | 2-3 | 「生きる力」を育む教育を推進する | | | |

6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|------------------------|-------------------------|--|---|--|------------|-------|------------|
| 1 | 取組 | 2-3-1 | ★「確かな学力」の充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 学校教育部 | 課名 | 学校教育推進課 | 課長名 | 加藤 拓 |
| 3 | 関係課 | 教育センター | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 全国学力・学習状況調査の平均正答率は、小学校では3年連続下がりましたが、中学校では向上しています。小中学校とも学力向上プラン開始年度から9年間の傾向で見ると、平均正答率が向上し、学力低位層の割合が減少し、高位層の割合が増加する傾向にあり、本市の児童・生徒の学力は着実に向上してきています。「確かな学力」を育成する学校づくりの推進の成果と考えられます。 | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 全国学力・学習状況調査の平均正答率(小学校) | 全国を1 | ↗ | 1.038 | 1.032 | 1.100(H28) |
| 全国学力・学習状況調査の平均正答率(中学校) | 全国を1 | ↗ | 1.055 | 1.068 | 1.065(H28) | | |

| | | | | | | | |
|----------|-------------------------|--|--|--|------------|-------|------------|
| 1 | 取組 | 2-3-2 | ★「豊かな心」の醸成 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 学校教育部 | 課名 | 学校教育推進課 | 課長名 | 加藤 拓 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 学力向上プランで子どもに育みたい4つの力の一つである自分力(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)をジャンプアッププラン28における目標値の一つとしましたが、小学生では若干低下し、中学生では向上しました。引き続き、道徳教育・人権教育など「豊かな心」を醸成する取組を充実させていく必要があります。 | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 自分力(小学校) | 点 | ↗ | 14.35 | 14.23 | 14.39(H28) |
| 自分力(中学校) | 点 | ↗ | 14.45 | 14.48 | 14.21(H28) | | |

| | | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | |
| 2 | 施策 | 2-3 | 「生きる力」を育む教育を推進する | | | |

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------|---|--|--|-----------|-------|-----------|
| 1 | 取組 | 2-3-3 | ★「健やかな体」の育成 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 学校教育部 | 課名 | 学校教育推進課 | 課長名 | 加藤 拓 |
| 3 | 関係課 | 学務課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる | 内容 | 「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | a | 体育授業の改善・充実を図るとともに、小学4年生から中学3年生の全児童・生徒にスポーツテストを実施し、記録をデータ化して個人シートを作成したことで、児童・生徒が自分の体と向き合い、運動の必要性を理解し、運動に対する意欲を高めることにつながっています。 | | | | |
| | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 運動(スポーツ)をすることが好きと答える割合(小学校) | % | ↗ | 88.4 | 91.4 | 87.1(H28) |
| 運動(スポーツ)をすることが好きと答える割合(中学校) | % | ↗ | 79.9 | 81.8 | 80.4(H28) | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------|--|--|--------|---------|-------|---------|
| 1 | 取組 | 2-3-4 | 学校支援体制の充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 学校教育部 | 課名 | 教育センター | 課長名 | 尾崎 静恵 |
| 3 | 関係課 | 教職員課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | 該当なし | 内容 | | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | a | 教職員のニーズを把握し、各種教育課題に対応するための研修を実施しました。相談者の状況が改善されるよう関係機関とも連携し、丁寧かつ迅速に相談業務を遂行しました。ケース会議・学校訪問など学校との連携に努め、不登校児童・生徒の学校復帰を目指しました。 | | | | |
| | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 教職員1人あたりの研修参加回数 | 回 | ↗ | 2.776 | 2.821 | 3(H31) |
| 相談員一人あたりの相談件数 (面接・電話・言語・不登校・発達相談) | 件/人 | → | 83.1 | 86 | 87(H31) | | |
| 不登校児童・生徒支援室への入級希望者数 | 件 | → | 30 | 38 | 40(H31) | | |

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|-------------------------|---|----------------------------------|--------|------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-4 | 魅力ある教育環境づくりを推進する | | |
| 3 | 施策の方向性 (前期基本計画より) | それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。 | | | |
| 4 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 教育総務部 | 部 長 | 乾 克文 |
| | | 施策主担当課 | 教育総務部 | 青少年課 | - |
| | | 施策関係課 | 学童保育課、施設課、社会教育振興課、学校教育推進課、教育センター | | |
| 5 | 施策内の取組 (★:重点プラン該当取組) | 2-4-1 | 学校施設の計画的な整備・充実 | | |
| | | 2-4-2 | ★学校・家庭・地域の連携の推進 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|------------------------------------|---|------------------|---|--|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | H28年度末現在の施策の主な課題 | | | |
| 2 | 快適な教育環境を整えるため、国の補助金等を効果的に活用し、外壁塗装・防水工事・内装工事などの大規模改修をはじめ、エアコンやエレベーターの設置、校舎増築など、施設・設備の充実を図っています。また、ICT機器を活用した課題解決型・協働型の授業づくりを推進し、授業でICT機器を活用する教員の割合は引き続き高い状況となっています。 放課後子ども教室については、大学生ボランティアを募集し、スタッフ確保に努めました。実施延べ日数は、H27年度より増加しましたが、校区の実情等により、実施日数や活動内容に差があります。 学童保育については、入室申請者数は毎年増加していることから、学童保育室の改修等で受入可能人数を大幅に増やしましたが、それを超える申請者の増があり、待機児童数は増加しています。 「家庭教育学級」を小学校区単位で開設するとともに、「親まなびおでかけ講座」についても各小学校区で実施したほか子育て関係課等や市内大学等とも連携することで、対象者の拡大を図りました。 ボランティア巡視員の見守り活動により、児童・生徒の登下校中の安全確保に努め、大きな事件や事故等をふせぎました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。 <input type="checkbox"/> | | 課題① | 事業全般にわたり、国庫補助金等の獲得が重要である。トイレ改修にあたっては、事業費を抑制しつつ快適な環境整備を進める方針を検討し、実施に向けた意思決定を得ることが課題である。 | |
| | | | 課題② | 教職員のICTを活用した授業実践力の向上に取り組むとともに、ICTの進化に併せたICT環境の整備を進める必要があります。 | |
| | | | 課題③ | 放課後子ども教室の実施状況は、地域の実情により、校区間で差が生じています。 | |
| | | | 課題④ | 学童保育室の改修等で受入可能人数を増やしているものの、入室申請者数が毎年大幅に増加しており、平成29年度も一斉受付期間後の申請については一部の学童保育室で4月当初から待機児童が発生します。 | |
| | | | 課題⑤ | 保護者の意識や生活様式の多様化により、家庭教育学級の開設校数が減少傾向にあります。また、親まなびおでかけ講座の更なる進展のために、対象者の検討及び講師の新規養成を実施する必要があります。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|--------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-4 | 魅力ある教育環境づくりを推進する |

3 H29年度の施策の進め方

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|--|---|
| 課題① への 対応 | 施設・設備の更新等は、事業の優先順位を決めて予算を平準化しつつ、国庫補助金等の情報収集に努めます。また、トイレ改修については、他市の状況や学校現場の利用状況などの把握に努め、合理的な指針づくりを進めます。 | <p>施設整備にあたっては、国の補助金制度を活用します。</p> <p>放課後子ども総合プランの推進のため、放課後子ども教室実行委員会と学童保育指導員が連携し、全ての児童が安全・安心に、より充実した放課後等の時間を過ごせるよう取組みます。</p> <p>学童保育については、実情に応じた利用とするため、長期休業期間のみの入室について検討します。</p> <p>家庭教育については、学級間の交流によりつながりを広げる情報交換会の実施等を支援します。</p> <p>子どもたちが、安心・安全に過ごせるよう、ボランティア巡視員による見守り活動や通学路の安全点検とともに、幅広い年代の地域住民による子どもを見守るネットワーク作りを推進します。</p> |
| 課題② への 対応 | ICTを活用した授業が効果的に行われるよう、ICT活用研修などで教職員の実践力を高めるとともに、タブレット端末の追加導入などのICT環境の整備を検討します。 | |
| 課題③ への 対応 | 引き続きスタッフの募集を行うとともに、市内事業者の協力を得ることで活動内容の充実を図ります。 | |
| 課題④ への 対応 | 受入可能人数の増を図るため、2学童保育室の建て替えを実施し、その他学校及び教育委員会と調整し、必要に応じ教室借用に努めます。また、利用料改定の審議と合わせ、長期休業中のみの利用も検討します。 | |
| 課題⑤ への 対応 | 家庭教育学級の開設を個別に支援し、親まなびおでかけ講座の各小学校区での実施に努めます。また、子育て関係課や市内大学等との連携による対象者の拡大、併せて地域人材を活用した親学習支援者(親まなびサポーター)の養成に取り組めます。 | |

4 H30年度以降の施策の方向性

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題① への 対応 | 指針に基づくトイレ改修と、洋式化の推進により、快適なトイレ環境の整備を進めていきます。 | <p>公共施設等マネジメント基本方針に基づき、学校施設の長寿命化に努めます。</p> <p>子どもたちが、安心・安全に過ごせるよう、ボランティア巡視員による見守り活動や通学路の安全点検とともに、幅広い年代の地域住民による子どもを見守るネットワーク作りを推進します。</p> |
| 課題② への 対応 | ICTの進化に併せたICT環境の整備とそれを効果的に活用した教育活動の推進に取り組めます。 | |
| 課題③ への 対応 | 安定的に安心・安全な居場所を提供するため、放課後子ども教室のスタッフ確保に努めるとともに、安全講習会等を実施するなどスタッフのスキルアップに努めます。 | |
| 課題④ への 対応 | 入室申請者数の増に応じて小学校の余裕教室を借用しているが、今後借用が困難となる学校があるため、余裕のある学童保育室への移動、学童保育実施時間のみの教室の借用等を検討します。 | |
| 課題⑤ への 対応 | 家庭教育学級の開設支援を継続して行い、親まなびおでかけ講座の対象者の検討を継続して行うとともに、国・府の動向に注視しつつ、親まなびサポーターの養成、スキルアップのための研修等の充実により、親まなびおでかけ講座の進展を図ります。 | |

5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

| H30年度以降の行財政改革の推進 | | 該当する主な行革指針の具体的項目 |
|------------------|---|---------------------|
| 1 | 学校施設の予防保全により、長寿命化とともに総経費の低減を図ります。実現可能なトイレ改修の方針をまとめ、計画的な改修を進めます。 | 2-2 事務事業の見直し |
| | | 2-5 公共施設等の適正管理と有効活用 |
| 2 | 学童保育室利用料について、平成29年度に審議会において検討し、平成30年度中の見直しを予定しています。 | 3-2 負担の公平性確保 |
| | | |
| 3 | 家庭教育関連事業の対象者や実施方法等について、国・府等の動向を注視しつつ、より効果的な手法を検討します。 | 2-2 事務事業の見直し |
| | | |
| 4 | 子どもの安全・安心な居場所や通学路の見守り活動等、子どもを見守るネットワーク作りをさらに推進します。 | 2-3 業務の改善・改革 |
| | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |

| | | | | | | |
|---|--------|-----|--------------------|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | |
| 2 | 施策 | 2-4 | 魅力ある教育環境づくりを推進する | | | |

6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|-------------------|-------------------------|---|---|--------|---------|-----------|----------|
| 1 | 取組 | 2-4-1 | 学校施設の計画的な整備・充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 施設課 | 課長名 有福 浩三 | |
| 3 | 関係課 | 教育センター | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 学校施設・設備等を計画的に更新することにより、児童・生徒が快適で効果的に学習できる教育環境を整備する。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | 該当なし | 内容 | | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | <p>快適な教育環境を整えるため、国の補助金等を効果的に活用し、外壁塗装・防水工事・内装工事などの大規模改修をはじめ、エアコンやエレベーターの設置、校舎増築など、施設・設備の充実を図ることができました。</p> <p>また、ICT機器を活用した課題解決型・協働型の授業づくりを推進し、授業でICT機器を活用する教員の割合は引き続き高い状況となっています。</p> | | | | |
| | | | <p>a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ</p> | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 小・中学校の特別教室等のエアコンの設置率 | % | ↗ | 82 | 82 | 100(H32) |
| 授業でICT機器を活用する教員の率 | % | ↗ | 91 | 91 | 95(H31) | | |

| | | | | | | | |
|---------------|-------------------------|--|---|--------|------------|-----------|------------|
| 1 | 取組 | 2-4-2 | ★学校・家庭・地域の連携の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 青少年課 | 課長名 松本 栄子 | |
| 3 | 関係課 | 学童保育課、社会教育振興課、学校教育推進課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ③安全・安心に暮らせるまちをつくる | 内容 子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供 | | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | <p>放課後子ども教室については、大学生ボランティアを募集し、スタッフ確保に努めました。実施延べ日数は、H27年度より増加しましたが、校区の実情等により、実施日数や活動内容に差があります。</p> <p>学童保育については、入室申請者数は毎年増加していることから、学童保育室の改修等で受入可能人数を大幅に増やしましたが、それを超える申請者の増があり、待機児童数は増加しています。</p> <p>「家庭教育学級」を小学校区単位で開設するとともに、「親まなびおでかけ講座」についても各小学校区で実施したほか子育て関係課等や市内大学とも連携することで、対象者の拡大を図りました。</p> <p>ボランティア巡視員の見守り活動により、児童・生徒の登下校中の安全確保に努め、大きな事件や事故等をふせぎました。</p> | | | | |
| | | | <p>a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ</p> | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 放課後子ども教室延べ実施日数 | 日 | ↗ | 2,672 | 2,776 | 3,012(H31) |
| 学童保育待機児童数 | 人 | ↘ | 22 | 31 | 0(H31) | | |
| 家庭教育関連事業の参加者数 | 人 | ↗ | 5,705 | 5,319 | 6,000(H31) | | |

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------------------------|--------|------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-5 | 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する | | |
| 3 | 施策の方向性 (前期基本計画より) | 全ての青少年がさまざまな地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。 | | | |
| 4 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 教育総務部 | 部 長 | 乾 克文 |
| | | 施策主担当課 | 教育総務部 | 青少年課 | - |
| | | 施策関係課 | こども政策課 | | |
| 5 | 施策内の取組 (★:重点プラン該当取組) | 2-5-1 | ★青少年健全育成の推進 | | |
| | | 2-5-2 | 青少年の体験活動の充実 | | |
| | | 2-5-3 | 若者の自立支援 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 H28年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|-----------------------------------|--|------------------|---|---|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 評価理由(H28年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等) | | H28年度末現在の施策の主な課題 | | | |
| 2 | 青少年問題協議会において、青少年健全育成の重点目標を設定し、家庭、学校、地域で共有を図るためリーフレットを作成・配布しました。また、各地域において青少年健全育成運動を推進していますが、多様化する青少年の課題を踏まえ取組を推進する必要があります。 子どもセミナーの開催や青少年野外活動センターにおいて、対象別に様々な体験活動の充実を図りましたが、学齢により参加状況に差が生じています。こども会加入率は微減傾向にありますが、こども会サポーターを募集し、必要なこども会に紹介するなど、こども会活動の促進を図りました。 また、子ども・若者支援については、庁内調整会議を開催し、関係機関、地域の支援者、庁内関係職員及び相談員からのヒアリングやワークショップ、行政データの把握等を実施し、整理・分析を行い、出された課題の解決策として、重点施策のとりまとめを行いました。 若者の自立支援については、民間支援機関に子ども・若者自立支援センター業務を委託し、ひきこもり等の当事者とその保護者への個別専門支援を実施することにより、スモールステップ(自立度)の段階の改善につながりました。また、子ども・若者支援地域協議会の構成機関や地域と調整・連携しながら支援体制の強化を図りました。また、市民税非課税世帯・生活保護世帯のひきこもり等の当事者とその保護者が、センターを無料で利用できるよう助成することにより、自立に向けた支援につながることができましたが、センター利用が有料であること等により、義務教育終了後、支援が途切れるケースが生じています。 子ども・若者支援に携わる関係者と保護者を対象に講習会を実施し、スキルアップと支援の充実を図るとともに、スーパーバイザーからアドバイスを受けて協議会の実効性を高めることができました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。 | | 課題① | 多様化する青少年の課題を踏まえた取組を推進する必要があります。年齢により体験活動への参加状況には差があります。 | |
| | | | 課題② | 地域での体験活動の場が減少しないよう、さらに、こども会活動を活性化させ、加入率を上げる必要があります。 | |
| | | | 課題③ | 子ども・若者支援については、実態把握で得られた新たに求められる支援を具体化し、取り組んでいく必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 子ども・若者自立支援センターの利用助成対象世帯が、生活保護世帯・市民税非課税世帯となっていることから、相談等につながらないケースがでています。中学校卒業後や高校中退後に支援が途切れることが懸念されています。 | |
| | | | 課題⑤ | 早期に相談につながるよう窓口を充実する必要があります。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|-----------------------------|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち |
| 2 | 施策 | 2-5 | 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する |

3 H29年度の施策の進め方

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題①への対応 | 青少年健全育成団体等の地域での活動状況や課題等を把握します。そのうえで、効果的な取組を検討します。体験活動の機会の提供については、実施状況から対象・内容等を適宜改善します。 | <p>青少年の健全育成を図るため、子どもセミナー等の体験活動の機会を提供するほか、青少年野外活動センターにおいて、対象別に様々なキャンプを実施するとともに、キャンプ活動を支援するカウンセラーの育成を行います。また、利用者に安全・安心な施設環境の提供に努めます。</p> <p>青少年の地域での体験活動の機会を提供するため、引き続き、子ども会親善スポーツ中央大会や百人一首カルタ競技会大会を実施します。また、子ども・若者支援については、実態把握の結果を踏まえ、子ども・若者へ切れ目なく、きめ細かな支援を実施します。</p> |
| 課題②への対応 | 子ども会活動の活性化を図るため、引き続き、子ども会サポーターを募集し、活動支援が必要な子ども会へ派遣します。 | |
| 課題③への対応 | 子ども・若者支援については、実態把握の結果を踏まえ取り組むとともに、ユースプラザ(中高生等の居場所・相談窓口の開設・地域と連携体制の構築)の開設に向け、内容と場所の検討を進めます。 | |
| 課題④への対応 | 利用助成を拡充し、より多くの方が子ども・若者自立支援センターを利用できるよう対応します。また、中学校卒業後や高校中退後に支援が途切れることがないよう、学校在学中に外部支援機関につながる方策を検討します。 | |
| 課題⑤への対応 | 様々な支援を要する中高生等の居場所と併せて相談窓口の開設・地域との連携体制の構築に向け検討を進めます。 | |

4 H30年度以降の施策の方向性

| 主な課題の解決に向けた施策展開 | | その他の施策展開 |
|-----------------|---|--|
| 課題①への対応 | 平成29年度の検討内容等を踏まえ、実施します。主催事業等を検証し、青少年の体験活動の充実を図ります。 | <p>青少年の健全育成を図るため、子どもセミナー等の体験活動の機会を提供するほか、青少年野外活動センターにおいて、対象別に様々なキャンプを実施するとともに、キャンプ活動を支援するカウンセラーの育成を行います。また、利用者に安全・安心な施設環境の提供に努めます。</p> <p>青少年の地域での体験活動の機会を提供するため、引き続き、子ども会親善スポーツ中央大会や百人一首カルタ競技会大会を実施します。また、子ども・若者支援については、実態把握の結果を踏まえ、子ども・若者へ切れ目なく、きめ細かな支援を実施します。</p> |
| 課題②への対応 | 子ども会等体験活動の機会を提供する団体の活動を支援します。 | |
| 課題③への対応 | ユースプラザを開設し、様々な体験活動を実施することにより、子ども・若者の自尊感情や自己肯定感を高める取組を進めます。 | |
| 課題④への対応 | 引き続き、より多くの方が子ども・若者自立支援センターを利用できるよう検討します。また、中学校卒業後や高校中退後に支援が途切れることがないよう、学校在学中に外部支援機関につながる方策を検討します。 | |
| 課題⑤への対応 | 様々な支援を要する中高生等の居場所と併せて相談機能を有する拠点として、ユースプラザを開設し、子ども・若者と保護者を支援するための連携体制の構築を図ります。 | |

5 H29年度及びH30年度以降の行財政改革の推進

| H30年度以降の行財政改革の推進 | | 該当する主な行革指針の具体的項目 |
|------------------|--|------------------|
| 1 | 多様化する青少年の課題に対応した取組を検討します。 | 2-2 事務事業の見直し |
| 2 | ユースプラザ事業(子ども・若者支援)について、市直営で実施するのではなく、民間事業者が有する知識や経験など様々な手法による民間活力の活用を図ります。 | 1-3 民間委託、民営化等の推進 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |

| | | | | | | | |
|---|--------|-----|-----------------------------|--|--|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | | | |
| 2 | 施策 | 2-5 | 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する | | | | |

6 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|---|-------------------------|--|---|--------|-------------------------------|-------|---------|
| 1 | 取組 | 2-5-1 | ★青少年健全育成の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 青少年課 | 課長名 | 松本 栄子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 地域における人間関係が希薄化する中、「地域の子どもは地域で見守り、育てる」ため青少年育成団体が活発な活動ができるよう支援するとともに、青少年を取り巻く社会環境の整備を図る。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | ③安全・安心に暮らせるまちをつくる | | 内容 | 「地域の子どもは地域で見守り、育てる」活動を行うための支援 | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 青少年問題協議会において、重点目標を設定するとともに、広く周知を図るためリーフレットを作成・配布しました。家庭、学校、地域で重点目標を共有し、多様化する青少年の課題を踏まえ、子ども達が心豊かに成長できるよう取組を推進する必要があります。また、青少年健全育成事業補助金を交付し、各地域における青少年健全育成運動を推進していますが、更なる活性化のためには、活動内容の充実が図られるよう、補助制度についての情報提供や指導に努める必要があります。 | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数 | 団体 | ↗ | 85 | 86 | 87(H31) |

| | | | | | | | |
|-------------------|-------------------------|--|--|--------|-------------|-------|------------|
| 1 | 取組 | 2-5-2 | 青少年の体験活動の充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 青少年課 | 課長名 | 松本 栄子 |
| 3 | 関係課 | こども政策課 | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 青少年が活動拠点である上中条青少年センター及び青少年野外活動センターなどでの体験活動を通して自尊感情や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | 該当なし | | 内容 | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 子どもセミナーの開催や青少年野外活動センターにおいて、対象別に様々なキャンプを実施するなど、体験活動の充実を図りましたが、学齢により参加状況に差が生じています。こども会加入率は微減傾向にありますが、こども会結成に向けての説明会の開催やこども会サポーターを募集し、必要なこども会に紹介するなど、こども会活動の促進を図りました。また、子ども・若者支援については、庁内調整会議を開催し、関係機関、地域の支援者、庁内関係職員及び相談員からのヒアリングやワークショップ、行政データの把握等を実施し、整理・分析を行い、出された課題の解決策として、重点施策のとりまとめを行いました。 | | | | |
| | | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | 上中条青少年センター主催事業参加者数 | 人 | ↗ | 1,770 | 2,107 | 2,300(H31) |
| 青少年野外活動センター年間利用人数 | 人 | ↗ | 11,675 | 11,707 | 12,000(H31) | | |
| こども会加入率 | % | → | 45.3 | 42.8 | 45(H31) | | |

| | | | | | |
|---|--------|-----|-----------------------------|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 2 | 次代の社会を担う子どもたちを育むまち | | |
| 2 | 施策 | 2-5 | 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する | | |

★:重点プラン該当取組

| | | | | | | | |
|---|-------------------------|---|---|--------|--------|-----------|---------|
| 1 | 取組 | 2-5-3 | 若者の自立支援 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | こども育成部 | 課名 | こども政策課 | 課長名 東井 芳樹 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (前期基本計画より) | 若者とその保護者が気軽に相談できる窓口が整備されています。 それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。 | | | | | |
| 5 | 該当する重点プラン (前期基本計画より) | 該当なし | 内容 | | | | |
| 6 | H28年度末現在の取組の現状と課題 | 取組の評価 | 評価理由(H28年度取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 民間支援機関に子ども・若者自立支援センター業務を委託し、ひきこもり等の当事者とその保護者への個別専門支援を実施することにより、スモールステップ(自立度)の段階の改善につながりました。また、子ども・若者支援地域協議会の構成機関や地域と調整・連携しながら支援体制の強化を図りました。市民税非課税世帯・生活保護世帯のひきこもり等の当事者とその保護者が、センターを無料で利用できること等により、自立に向けた支援につながることができましたが、センター利用が有料であること等により、義務教育終了後、支援が途切れるケースが生じています。 | | | | |
| | | a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ | 子ども・若者支援に携わる関係者と保護者を対象に講習会を実施し、スキルアップと支援の充実を図るとともに、スーパーバイザーからアドバイスを受けて協議会の実効性を高めることができました。 | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | H27年度 | H28年度 | |
| | | スモールステップの段階(自立度)アップ率《改善率》 | % | ↗ | 81 | 92 | 95(H31) |